

更埴市史 第二卷 近世編 目次

発刊のことば

凡例

概観……………一

第一章 幕藩制の成立……………五

第一節 近世初期の領知の変遷……………七

一 森忠政と北信濃……………七

忠政の北信濃入封 稲荷山村の右近検地

二 松平忠輝の北信濃入封……………一〇

忠輝と大久保長安 忠輝の越後入封と花井吉成

三 松平忠昌の松城入封……………一三

忠輝の改易と北信濃各藩の成立 松平忠昌の松代入封と近世松代藩の成立

四 酒井忠勝と松城入封……………一四

忠勝と川中島知行目録 酒井忠勝の施政

第二節 松代・八幡宮・上田各私領と幕府領の成立……………一六

一 真田松代藩領の成立……………一六

真田氏の動向 真田氏の松代入封

二 八幡宮領の成立……………一三

近世八幡宮領の成立 更埴地域のその他の

寺社領

三 上田藩領……………一四

上田藩飛領地の成立 仙石氏から上田松平氏へ

四 幕府領……………一五

幕府領から高田飛領地へ 坂木板倉領から再び幕府領へ

第二章 幕藩政治の展開……………一六

第一節 松代藩政の展開……………一三

一 藩主真田氏とその家臣……………一三

歴代藩主と藩政 真田家臣団の構成 知行取家臣 蔵前取家臣 知

二 松代藩統治のしくみ……………一四

統治組織とその変遷 代官・手代と農民統治 行政区画

三 延宝四年の御触と領民……………一七

条目・御触と農民 御仕置御規定 殿様御境廻りと御巡見

四 真田家の喪と領民……………一七

幸専の死と領民 尾張大納言の死去と松代藩領民

五 人詰改と宗門改……………一八

人詰改 宗門改 五人組改

六 寛文検地と寛文以降の検地…………… 五

寛文六年の指出検地 寛文以降の検地
検地の実際と掟 田畑の質入と売買

七 蔵入地の財政収支…………… 三

蔵入地の年貢収支 年貢の割付 知行所
の貢租 検見

第二節 八幡宮領と大英寺領…………… 六

一 八幡宮神主・別当と領民…………… 六

神主領と別当領 宗門人別改と五人組改

二 八幡宮領検地と貢租…………… 九

寛文と安永検地 本口粃と小作粃

三 松代藩政と八幡宮領…………… 五

松代藩支配三カ所

四 大英寺領…………… 六

朱印地百石と貢租

第三節 上田藩の概要…………… 六

一 上田藩飛領地の成立…………… 六

上田藩飛領地成立以前の動向 上杉景勝
津軫封後の更埴 稲荷山村の検地と農民支
配機構 村指出帳にみる村の実際

二 上田藩領後期の稲荷山…………… 七

上田藩川中島飛領地へ復帰 村の財政
農間稼ぎと稼業改 稲荷山宿と伊能忠敬

第四節 越後高田領より幕府領へ…………… 四

一 高田藩坂木飛領地の成立…………… 四

坂木飛領地の成立と領地

二 幕府領への編入…………… 五

坂木幕府領の成立と支配機構 代官の領地
統治の実際 幕府領の農村支配機構 検
地と農民の所持地 村明細帳にみる農村の
実際 農民の年貢負担と割付 村の財政

第三章 近世村落と村民…………… 二

第一節 近世村落の形成…………… 三

一 近世村落の成りたち…………… 三

村切りと村高の決定 上田藩領・幕府領・
松代藩領に分断された村むら

第二節 村落と村民…………… 七

一 上田藩領の村…………… 七

稲荷山村

二 幕府領の村むら…………… 四

寂詩村 鋳物師屋村 打沢村 新田村
桜堂村 小島村 杭瀬下村

三 松代藩領の村むら…………… 六

桑原村 八幡村 向八幡村 栗佐村
矢代村 森村 倉科村 雨宮村
生萱村 土口村

第三節 近世村落のしくみ……………一九五

一 村方三役人の成立……………一九五

肝煎から名主へ 村方三役へ 頭立と小前惣代

二 村落の農民構成……………一九九

本百姓と非本百姓 農民の階層分化

第四章 宿駅制と交通……………二〇五

第一節 街道と宿……………二〇七

一 北国街道と北国西街道……………二〇七

北国街道 北国西街道

二 矢代宿……………二〇〇

矢代宿の成立と構成 本陣と脇本陣 伝馬と駄賃 矢代宿の伝馬勤め 矢代宿の駄賃 大名の通行と佐渡金銀の輸送

三 稲荷山宿……………二〇六

稲荷山宿の成立 宿の構成と本陣・問屋 稲荷山宿の伝馬と運営

第二節 間の宿・口留番所・船渡……………二〇三

一 間の宿……………二〇三

桑原宿 寂時宿

二 口留番所……………二〇四

桑原と大田原の口留番所 口留番所の任務

と普請

三 船 渡……………二〇四

矢代船渡 杭瀬下と向八幡の船渡 舟賃 舟賃扱の負担 新船造り

第三節 助郷と宿の出入……………二〇五

一 助郷……………二〇五

矢代宿助郷 坂木・戸倉宿助郷 稲荷山宿助郷 中山道助郷

二 宿 出 入……………二〇七

矢代宿内の客引き出入り 稲荷山宿と桑原・篠ノ井宿との旅籠屋出入り

第四節 中馬と通船……………二〇六

一 中馬……………二〇六

更埴市域の中馬 明和裁許と中馬の数 宿場との争い・中馬同士の争い

二 通 船……………二〇六

千曲川通船 犀川通船

第五節 街道・宿の状況と旅……………二〇七

一 街道・宿の状況……………二〇七

輸送の増加と飛脚業 矢代宿のようす 稲荷山宿のようす 猿ヶ馬場峠と田原坂

二 旅……………二〇七

神社・寺院参りの旅 道中記を見る 伊勢参宮と中条唯七郎の旅

第五章 用水堰と溜池……………三二五

第一節 矢代用水堰の成立と移りかわり……………三二七

一 矢代用水堰の成立……………三二七

口碑から史実へ

二 矢代用水堰の初期……………三二七

一八カ村・高一万石余の用水 沢山入会地
と矢代用水堰の争論

三 矢代用水堰の移りかわり……………三二九

重ヶ淵にかかわる争論 寛保二年戊の大満
水 寂蒔村地内へ仮堰設立 用水取入口
の変更 矢代仮堰の成立 徳間・内川取
入口仮堰を本堰に 内川村が堰組合に再び
加わる 幕府領七カ村へ取入口設置願ひ
幕府領七カ村と徳間村の争い 古寺前水
門破損 伊勢宮樋 森・倉科新用水堰分
水設立

四 地藏堂前控樋と船山水門……………三三〇

地藏堂前控樋 船山水門

五 用水費負担についての対立……………三三二

天保三〇四年の争い 訴訟にかかった費用

六 その他の用水管理……………三三六

用水にかかわる諸取りきめ 矢代用水の堰
守 堰守の仕事 用水普請小屋 用水
の堰慣行 堰の修繕と費用

第二節 森・倉科用水……………三三四

一 森村の堤成立……………三三四

岡森の古堤と中村の堤

二 倉科村の用水堰……………三三五

せせなぎ堰

第三節 稲荷山・塩崎用水……………三三七

一 稲荷山・塩崎用水路ができる……………三三七

稲荷山・塩崎用水堰の成立 稲荷山・塩崎
両村との借地規定

二 用水出入……………三三九

用水にかかわる争い

第四節 三カ村用水(若宮用水)……………三三三

一 三カ村用水と代組……………三三三

三カ村の用水確保の苦心

二 三カ村用水の運営……………三三三

用水堰の規定 用水費用の負担

第五節 大池用水……………三三六

一 大池用水のうつりかわり……………三三六

大池用水と新田開発 大池の外池と下池
文久年間の大池用水の利用状況 新田開

発 大池新田村の開発 棚田の名所

二 大池の普請と運営……………三三六

大池の普請 大池用水に関する規定 羽
尾村出作人との争い

第六節 溜池……………三五

一 桑原村の溜池……………三五

杳打平溜池の築造 遠見塚池の築造

二 大田原村の用水と溜池……………三六

大田原用水堤の築造

三 八幡三カ村の溜池……………三六

猿飛池の普請 八幡村「下池」の普請

梨子久保新池の普請 郡村「前池」の開発

四 稲荷山村の溜池……………三五

治田池と釜蓋溜井の築造

五 倉科村の溜池……………三五

溜池の築造

第七節 水車稼ぎ……………三五

一 松代藩領の水車稼ぎ……………三五

矢代村・栗佐村の水車稼ぎ 森村・倉科村の水車稼ぎ 千曲川左岸の水車稼ぎ

二 幕府領の水車稼ぎ……………三五

打沢村の水車稼ぎ 杭瀬下・新田村の水車稼ぎ 寂時村の水車稼ぎ

三 上田藩領の水車稼ぎ……………三六

稲荷山村の水車稼ぎ

第六章 千曲川の水害と諸災害……………三五

第一節 千曲川と災害……………三五

一 洪水による被害……………三五

更埴市域は洪水の常襲地帯 洪水の被害と

水害後の不作 寛保二年戊の満水 安政

六年の洪水と矢代村の被害 佐野川のはん

濫とその被害

第二節 水害対策と普請……………三六

一 国役普請……………三六

国役普請の上納金割当 国役普請の実際

二 郡役普請……………三六

郡役普請の実際

三 自 普 請……………三六

松代藩領村々の自普請 上田藩領稲荷山村の自普請

第三節 村境争論……………三七

千曲川をめぐる争い

一 稲荷山村と杭瀬下村・新田村の村境争い……………三七

元禄五年用水をめぐる問題 安政三〇四年

の境界争い

二 栗佐村と塩崎村の千曲川村境争い……………三七

天保以前の村境争い 栗佐村と塩崎村の和

談成立 文政六年十一月千曲川地境論争

三 塩崎村と矢代村・粟佐村・上横田村との千曲川

村境争い……………三九五

訴訟の内容とその経過 天保三年地境杭打ち

ち 矢代村と塩崎村の村境規定 粟佐村

と塩崎村の村境示談

四 八幡村代組と須坂村の村境争い……………三九六

藩役人による訴訟裁許

第四節 田畑の不作……………三九七

一 不作の実態……………三九九

早魃による被害と雨乞い 長雨や虫喰いの

被害 不作のための農民救済

二 不作対策……………四〇〇

貯穀による村民救済 社倉取建の触れが出る

第五節 飢饉とその対策……………四〇一

一 享保の飢饉と対策……………四〇二

飢饉のあらまし 気候不順による飢饉

困米・困糶

二 天明の飢饉と対策……………四〇三

冷害による飢饉 苦しい農民のくらし

潰れ百姓 御救米と拝借金 儉約を強いる

三 天保の飢饉と対策……………四〇六

気候不順による凶作 天保七年の大凶作

物価高騰 飢饉対策 貯穀・困穀(粃)

拝借米と下げ穀 穀物の融通 拝借

米積み戻し日延べ お粥を村人に施す
儉約を強いられる

第六節 地震による災害……………四〇九

一 地震災害の概要……………四〇九

更埴近辺の地震

二 弘化四年の大地震……………四一〇

善光寺地震おきる 地震で家々潰れ後火災

洪水の被害 松代藩領内の地震の被害

地震止むことなく続く

三 弘化地震の被害と救援……………四一七

稲荷山宿の被害 上田藩の稲荷山宿救済

八幡村の被害 桑原村の被害 矢代村

の被害 雨宮・土口・生萱村の被害 森

村の被害 倉科村の被害 向八幡村の被害

害 幕府領七カ村の被害 被災者の救済

奇特な者への褒賞

第七節 火災による災害……………四二〇

一 八幡宮(武水別神社)の火災……………四二〇

文化七年の火災 火災後のしまつ 天保

十三年の火災 火災後のしまつ 公儀へ

の報告と吟味 仮普請はじまる 御遷座

の火災 奇特な人々

二 更埴地域の主な火災……………四二七

矢代村の火災 稲荷山村の火災 杭瀬下

村の火災

第七章 産業と経済……………四六

第一節 林 野……………四七

一 入会山と山論……………四七

近世の山林と林野 田原山をめぐる出入

横手山をめぐる出入 横手山入会の取決

め 沢山入会 冠着山・猿ヶ馬場峠等の

山論 大池山(芝山)と峯山入会

二 御 林……………四七

八幡御林 倉科御林 田原山・横手山御

林

三 林野の開発……………四八

沢山開発 芝山などの開発 筏下げ

第二節 諸 産 業……………四九

一 市……………四九

八幡市 稲荷山市と楮市

二 養 蚕 業……………四九

信濃国の養蚕 養蚕業の始まりと切条

杭瀬下村の桑苗生産 養蚕業の発展 蚕

種と蚕種商 登せ糸(生糸)

三 農 業……………五〇

農業形態の変化 宝永差出帳、村明細帳に

みる農業 主な産物の取れ高 田植への

時期 杏栽培の始まり 杏仁・杏干

杏の販売と藩の政策 牛馬数

四 酒 造 業……………五九

酒造株と酒造高 酒造仲間 揚酒屋・振

売人

五 諸商売・諸職人と物資の流通……………五八

町や村の諸商売 ふえる職人 他国・他

領よりの職人 瓦屋根と瓦焼き 漁業・

漁師 諸物資の流通 流通の多様化

第八章 幕藩体制の動揺と崩壊……………五五

第一節 天保期の社会情勢……………五七

一 天保期の特色……………五七

文政のおかげ参り 天保期の特色

二 更埴地域の動向……………五八

天保期以後の更埴地域 松代藩の村政

藩から村に出された法令 検地と農民の土

地所有 上田藩稲荷山村の村政 農民の

土地所持高と貢租 幕府領の村役人 村

役人の選出と農民所持地 農業生産と年貢

の負担

三 天保改革と更埴地域の動き……………五〇

天保改革と諸政策 更埴地域の動向 稲

荷山村の小前騒動 改革に対する為政者の

対応

第二節 開国と農村社会の変化……………五九

一 開国と幕府政治……………五九

ペリーの来航と幕政の転換 松代藩の藩政
改革と農村 開国前後の社会の動き

二 強まる統制 五五

くり返して出される法令 新たに税負担が
増加する

三 自立しはじめの農民 五二

一 地主の記録にみる農村 五三

第三節 幕府の崩壊と社会情勢 五五

一 幕末の政治情勢 五五

禁門の変から幕府の解体へ 五五

二 幕府の崩壊と更埴市域 五六

和宮降嫁と更埴市域の動き 京都御所の警
衛へ 五六

三 維新への動きと内乱 五三

戊辰(飯山・奥羽北越)戦争と更埴市域の動
向 五三

第九章 神社・仏閣 五七

第一節 武水別神社と神宮寺 五九

一 武水別神社の概要 五九

祭られている神々 江戸時代延宝ごろの八
幡宮 天保年間の祭典行事 現在の祭典 五九

二 武水別神社の大頭祭 六五

大頭祭の概略 一単位祭の次第 神納銭
からみた大頭祭 大頭祭への祝儀 御頭
帳 頭役決定をめぐる出入

三 武水別神社の再建 六四

八幡宮再建への陳情と勸化 立川和四郎の
本殿建築

四 別当と神主 六九

棟札に関する別当と神主の出入 神仏分離

五 神宮寺の創設 六三

八幡宮神宮寺のはじまり 八幡別当の任命
袈裟衣の許可

六 神宮寺の構成 六三

神宮寺の末門寺 神宮寺の役僧 神宮寺
の八幡宮奉仕 神宮寺と真田藩の関係

七 武水別神社号をめぐる負担金 六五

八 廃仏毀釈による神宮寺の廃止 六六

第二節 雨宮坐日吉神社 六〇

一 雨宮坐日吉神社の概要 六〇

祭られている神々とその立地 安永年間の
神社のようす

二 雨宮坐日吉神社の御神事 六一

御神事の意義 御神事の概要 御神事を
めぐる出入 幕末から明治初期の御神事

第三節 須々岐水神社 六七

一 須々岐水神社の概要 六七

「屋代村誌」からみた須々岐水神社 天保
年間の神社の年中行事

二 須々岐水神社の祭事……………三六

須々岐水神社一つ物の概要 神興唐崎渡御
及び一つ物の行列 唐崎渡御のようす
山王祭礼の礼式

三 須々岐水神社の火災と再建……………三六

須々岐水神社の火災 立川和四郎への再建
依頼 須々岐水神社再建の費用

第四節 治田神社……………三六

一 治田神社の概要……………三六

町誌からみた治田神社 天明年間の治田神社

二 社号允可をめぐる動き……………三六

社号申請の願書提出 社号申請願書に対す
るやりとり

第五節 その他の神社……………三六

一 神社について……………三六

氏神・鎮守・産土神 祭神と神社の統合
元禄年間の更埴地域の堂宮 宝暦年間の
更埴地域の神社

二 千曲川右岸の神社……………三六

土口村の神社 雨宮村の神社 生萱村の
神社 倉科村の神社 森村の神社 矢
代村の神社 東船山村の神社 西船山村
の神社 向八幡村の神社

三 千曲川左岸の神社……………三六

稲荷山村の神社 桑原村の神社 八幡村
の神社

第六節 千曲川右岸の寺院……………三七

一 土口村の寺院……………三七

正応寺

二 雨宮村の寺院……………三七

法輪寺 正法寺

三 生萱村の寺院……………三七

観音寺 蓮華寺

四 倉科村の寺院……………三七

清涼院 本覺寺

五 森村の寺院……………三七

興正寺 禪透院 華嚴寺 観龍寺

念仏寺

六 矢代村の寺院……………三七

法華寺 智照院 生蓮寺

七 栗佐村の寺院……………三七

永代寺

八 小島・寂蒔・鋳物師屋村の寺院……………三七

満照寺 永昌寺 長福寺

九 杭瀬下・新田両村の寺院……………三七

勝徳寺 徳念寺 泰峯寺

十 中村の寺院……………三七

徳心院

第七節 千曲川左岸の寺院……………六三

一 稲荷山村の寺院……………六三

長雲寺 極楽寺

二 桑原村の寺院……………六四

龍洞院 長福寺 佐野薬師 浄光庵

廃寺跡

三 八幡村の寺院……………六七

大雲寺 仙福寺 青松寺 高円寺

開眼寺 清浄院 長楽寺

第十章 学問と文化……………六一

第一節 学問の庶民化……………六三

一 藩や代官所の教化政策……………六三

支配者の教化施策と庶民文化 教諭書と五人組帳前書 松代藩と心学 代官の教諭書

書

二 心学者の教化活動……………六六

心学の先駆者 心学講舎泰安社の社友

心学のひろまりと講舎の設立 道話聴

開会 「口教」と講義内容

三 寺子屋教育の普及……………七八

寺子屋の創設 寺子の入門 手習本と往来物

寺子の生活と行事 家塾・寺子屋

第二節 文化のひろがりと特色……………七四

一 姨捨の石碑群……………七四

姨捨山と俳諧 句碑の建立と由来

二 更埴の俳諧……………七三

芭蕉句碑 俳諧のひろがり 路因・吐丈の活躍 俳諧の黄金期 句会・献額

三 白雄門下の俳人たち……………七五

白雄の影響 矢代への交遊

四 芸能と宗匠群……………七三

書道の普及 絵画の普及 謡曲

華道

五 『見聞集録』にみられる庶民文化……………七四

中条唯七郎の生いたち 「見聞集録」にみられる文化のひろがり

第三節 おもな文化人……………七四

一 成俊碑と飯島淳子……………七四

万葉集研究への情熱 成俊碑の碑文

二 郷土史家柿崎多膳……………七五

柿崎多膳の遺業

三 言流舎と小林迎祥……………七五

放浪の文化人 迎祥の遺業

あとがき

監修・執筆者、刊行会、市史編纂委員会名簿